

東京都における人権施策に関する有識者懇談会（第7回）議事概要

出席：江上千恵子委員、佐藤佳弘委員、繁田雅弘委員、戸松秀典委員、
本澤巳代子委員（以上5名）

○議題

(1)提言（案）について

【主な意見】

「東京都における人権状況」

- ・ヘイトスピーチについても言及する。

「人権施策の基本理念」

- ・様々な背景や属性に性別、年齢を加えた。

「施策展開にあたっての考え方」

- ・分かりやすくするため、「①共助の心の醸成」を「①助け合い・思いやりの心の醸成」に、「③自立性の尊重」を「③自己実現の支援」に改めた。

「指針で取り上げるべき人権課題」

- ・「各人権課題が個人に責任がある」等の誤解を避けるため「個に起因して発生する人権課題、社会的関係に起因する人権課題、国際的關係や民族等に起因する人権課題」を「個人、社会的関係、国際的關係や民族等」に修正した。
- ・「性的マイノリティ」を「性同一性障害者」「性的指向」として記述。
- ・「H I V感染者等」を「H I V感染者、ハンセン病患者等」に修正

「施策の進め方」

- ・取組本来の趣旨を示すため、「救済」を残すこととし、「相談・保護」を「救済・相談」とした。

(2)提言策定にあたっての意見

【主な意見】

- ・提言は方向性。今後は本当に実行することが重要となる。スタートのスタートのところに立った段階。東京都には、今後、提言の実行、見直しに取り組んでもらいたい。
- ・医療福祉では、障害などで自己決定自体が困難な人も大勢いる。自己決定を尊重すること自体も含めて、自己決定自体を、決定すること自体を支援して

いかないといけない。

- 日頃「人権」と言いながら、自身が他者の人権を侵害している可能性もある。常に自分自身を振り返って仕事を進めないといけない。
- 貧困の家庭の子供、立ちたくても立てない人達に自立ということに心を痛めてきた。「自己実現の支援」と表現を変えられてよかった。「性同一性障害」と「性的指向」が混同されることに苦しんでいる人達もいる。
- ヘイトスピーチがあった。イスラムの人達にも変な偏見や差別が起こらないか心配。私たちの恐怖心や差別意識が形を変えて出てくるという怖さも感じている。これから将来、まだ見直しも必要となる。世の中刻々と動いているので、今回は一遍一区切りということだと思っている。
- 都には常に人権の状況を把握するよう努めてもらいたい。人権団体を組織できないようなところの問題までも、人権課題として把握して行ってほしい。実態と法制度の関係などもしっかり見ていかななくてはならない。

(3)副知事に提言を手交

以上